



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	ソヴィエト・キルギスの形成：中央アジア民族・共和国境界画定におけるキルギス人活動家の役割を中心に
Author(s)	ベクトゥルスノフ・ミルラン
Citation	日本中央アジア学会報, 13, 50-52
Issue Date	2017-07-31
DOI	https://doi.org/10.14943/jacas.13.50
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/88316
Type	journal article
File Information	JB013_007bektursunov.pdf



ソヴィエト・キルギスの形成

— 中央アジア民族・共和国境界画定におけるキルギス人活動家の役割を中心に —

ベクトゥルスノフ・ミルラン

本論は、ソ連初期におけるソヴィエト・キルギスの形成の過程で現地人エリートがどのような立場を取ったかを検討したものである。従来までの先行研究では、ソ連初期の中央アジアにおいてエスニックに基づいた共和国を形成することについて中央政権と現地人エリートとの関係を中心に検討されてきた。特に、民族共和国を形成する過程の中で中央政権と共に現地人エリートも重要な役割を果たしたことが注目を集めている。しかし、「現地人エリート」という場合、主にウズベク人かトルクメン人、あるいはカザフ人のことが念頭に置かれていると言える。そのほかの民族であるキルギス人とカラカルパク人、あるいはタジク人の政治エリートの中央アジア・ソヴィエト民族共和国の形成過程における参加・活動についてはそれほど注目されてこなかった。特に、1924年に行われた中央アジア民族・共和国境界画定を中央政権と現地人エリートの議論と交渉の結果として見ているアルネ・ハウゲン⁽¹⁾は、キルギス人とカラカルパク人、そしてタジク人から民族・共和国境界画定の前に民族主義的要求がなかったこと、そして後に登場する彼らの民族主義的要求が基本的に境界画定過程の結果であると主張した⁽¹⁾。そのため、本論でこれらの民族からキルギス人に注目し、境界画定以前のキルギス政治エリートの登場、そして境界画定が開始され、実際に行われる過程における彼らの立場を把握する目的である。

ソ連初期のキルギス政治・文化エリートの多くは、ロシア帝政時代に生まれ育った活動家である。そのために、本論の前半では帝政時代におけるキルギス知識人の登場を分析し、彼らの文化活動に注目した。具体的に言えば、イシェナール・アラバエフ(1881–1933)、オスマナール・スドックウール(1875–1942)、ベレク・ソルトノエフ(1878–1937?)の3人である。これらの知識人はキルギス人の歴史、文化的な状況の未整備に強い関心を持ち、積極的に啓蒙活動に参加するようになった。例えば、アラバエフは、1911年にキルギス史上で初の出版

⁽¹⁾ Haugen, Arne. 2003, *The Establishment of National Republics in Soviet Central Asia*, Houndmills. Basingstoke, Hampshire: Palgrave Macmillan. 特に、第7章。

物となる「地震についての物語」⁽²⁾という作品にまえがきを書き、ウファで出版した。このまえがきでは、彼は「我々キルギス人」という理念について初めて述べたのである。スドゥクウールも1913年と1914年にキルギスの歴史を系譜的に語った著作を出版した。その導入部でスドゥクウールが「各民族は歴史を持っている」が、「我々キルギス人には今まで歴史家がいなかった」と述べた。ソルトノエフの著作も注目に値する。ソルトノエフは、初めて外国語の先行研究を参照し、キルギスの歴史を執筆したのである。

このように、帝政時代に「我々キルギス」に関する歴史的、民俗学的関心が生まれ、それが少しずつ歴史的著作として登場してきたと言える。

そして、続く第2章では、キルギス政治エリートによる自治州を求める運動を分析した。1922年3月に上記に触れたアラバエフとアブドゥケリム・スドゥコフ(1889–1938)という活動家がトルキスタン・ソヴィエト共和国の中央政権に山岳カラ・キルギス州を設立することを訴え、最終的に承認を得た。キルギスのエリートには、3つの州に分けられて居住していたキルギス人をトルキスタン共和国の中で一つの州に統一させ、ほかの中央アジアの民族と同等な立場にある民族として認めてもらう狙いがあった。しかし、最初に承認したタシケント政権側は、後にカラ・キルギス州の設立が時期尚早という理由で中止したのである。

このように1922年に山岳カラ・キルギス州が実現されなかったが、その2年後に中央アジア民族・共和国境界画定が行われ、その結果、ほかの中央アジア民族共和国と共にカラ・キルギス自治州も宣言された。しかし、最初の段階で境界画定を計画し、議論する過程の中でキルギス自治州が含まれていなかった。そのため、アラバエフをはじめとする当時のキルギスのエリートが再び声を上げ、キルギス人が忘れられていたことに強い不満を示したのである。特に、アラバエフは3月の10日に行われたトルキスタン共産主義者の総会において、キルギス人はいつもカザフ人の一部とされ、独自の民族であると認められていなかったことを批判した。その結果として、最初の計画でなかったキルギス人に対して個別の民族行政単位が与えられるようになった。

本論ではロシア帝政時代に生まれ育ったキルギス知識人がいかにソ連の枠内で自治を求め、カラ・キルギス自治州の形成を訴えてきたかを見てきた。ソ連初期におけるキルギス人の民族主義的要求は、民族・共和国境界画定の前に上がっていた。このように、1924年10月に宣言されたカラ・キルギス自治州は、中央政権とキルギス政治・文化エリートの交渉の結果だったと言える。

(2)「地震についての物語」はキルギス社会で有名だった詩人モルド・クルチの作品だった。

参考文献

ЦГА ПД КР: Центральный государственный архив политической документации Кыргызской Республики [キルギス共和国政治資料中央国立文書館] Ф.391, Оп.3, Д.59, 60, 61, 70, 139; Ф.10, Оп.1, Д.28, 33, 35.

ЦГА КР: Центральный государственный архив Кыргызской Республики [キルギス共和国中央国立文書館] Ф.21, Оп.6, Д.139.

РГАСПИ: Российский государственный архив социально-политической истории [ロシア国立社会政治史文書館] Ф.62, Оп.2, Д.8, 43, 87, 88, 102, 104, 107, 169.

(北海道大学大学院文学研究科)